

# 一 報 一 あかいけ

発行所 赤池町役場 編集 総務課 大谷 孝進 No.119号

## 町の人口

(8月1日現在)

総人口	9,029人
男子	4,243人
女子	4,786人
世帯数	2,653世帯

## 地すべりで四戸倒壊

### 十九世帯が避難

〔伏原地区〕

伏原地区の地すべり災害発生からはやくも一カ月が過ぎました。

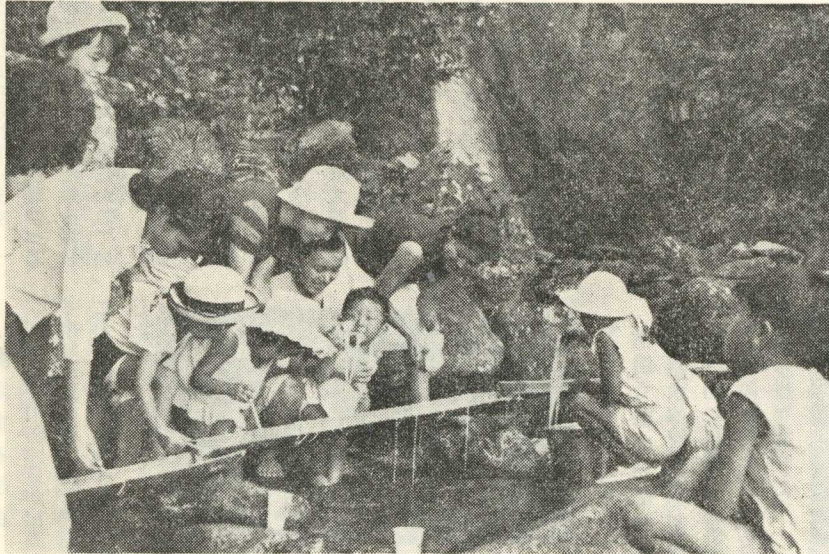
八月七日午後十二時四十分頃配水池の山が地すべりを起し、民家二戸県営住宅二戸倒壊七戸が半壊し二十一世帯が避難

に全力を注いでいます。

幸にして昼間の出来事で人命には被害はありませんでした。

七月二十二日の集中豪雨によって、民家や配水池に亀裂(きれつ)が入り、町では災害対策本部を役場に設け、現地に大栄地建の調査団や、警備員を派遣して防災にあたる

とともに調査にのり出しました。



## 残 暑

残暑きびしい折柄と書きたいが、ことしの夏は例年になく涼しく、長期天気予報では残暑は短かく、冬の訪づれは早くなりそうです。

上野の溪谷でソーメン流しが大はやり、長い竹のといを伝って流れてくる、ソーメンを拾い上げ、スメをつけて食べる。

このソーメン流しは、野趣に富んだシャレた食べ方として野外調理の決定版と言えます。いま上野峡は、残暑をさけてやってくるマイカー族でにぎわっています。

〔家族づれで賞味するソーメン流し〕

八月七日午前九時頃町議会委員会の調査団が現地を視察して帰った矢先、地すべり前ぶれの予報が入り、対策本部では地区住民に避難の勧告をし本部員が出動しました。

午後十二時三十分頃現地の亀裂の広がりは一秒間に一ミリの速さで広がり、亀裂の底の音は(ゴロゴロ)と音をたて周囲は野焼する時竹が燃える時のような「バリバリ」音をたてながら山を約百八十米にわたって徒断するようになり亀裂が入りました。

伏原周辺の民家に給水している配水池も浮上するようない状態に約十五米地すべりを起こし破壊され給水不能になりました。

民家の方は藤田勘次さん方の床下や周囲に深さ一米三十センチの亀裂を生じ入居不能となりました。又今吉義男さんや河野友雄さん、野口トシ子さん宅は土砂によって押しつぶされ、家財道具を出すすまもなく避難しました。

## 防 災

防災は細心の注意が大切です。家を建築する時は、環境も考慮しなければなりません。が、まず考えられる事は、立地条件を調査して、建築するようにして下さい。

(敬称略)

【全壊】野口トシ子、河野友雄、以上県営住宅関係

藤田勘次、今吉義男、以上個人住宅

【避難者】カソコ内は住所藤田勘次、今吉義男、長野恵

乾巖、竹下孝、神田勝成、鳥羽一男、水永幹男、池野正勝

(伏原)

河野敏、中園清孝、山口純、福岡ヒデノ、下村信義、花元

一利、清水輝雄、篠原サヨ子

大井清人、瓜生田寿、河野友雄、野口トシ子(県営住宅)